

十二月未だの湯朱印と云まゝ家同

十の年八月十二日〜二十四〜

死〜寛永法名良圓家其子

彌お多信貞成家氏花よ生る〜

右之清家元和四年〜

台徳院殿と拜〜家寛永

九年より

大猷院殿よ家父死〜

送跡家其子權之助家

寛永及高爾家貞亮家

七家貞勝家五家貞次家

氏花の生家寛永二年八月

大猷院殿と拜寛永也右

筆家康米二百俵家同

十二年四月

大猷院殿日光家時遊家

あまのまゝ川が 家譜(今)の十番
版高主水胤親の祖なり

百助正次まきつぐの彌やの多たの貞次さだつぐの四男なり

武藏よしなる寛永十一年

大猷院教印上法のよき二條城

ないて始はて拜謁はうてつ一は同十の年より

大番の列れつ又また大おほの保主たも正ただの組

屬ぞく 寛永
十康米かみ二百俵にひゃくばうををまますす 家譜
(今)

新番版高八巻
貞仰の祖なり

傳八市貞久さだひさ 按
はさるるは家譜
の流方なりの彌やの多たの貞次さだつぐの

小男こなうあり攝津せつよしなる 寛永
十のり二市

よよの寛永かんえい十の年十一月じゅういちがつ兄あに去さる

貞成さだなりの賜たまふところの康米かみを賜たまふ

時ときは十氣じゅうきありき 家譜(今)の西城新番祖
版高主胤親の祖なり